

## 第3回 苫小牧市総合計画市民懇話会 議事録要旨

- 【日 時】 平成29年3月30日（木）18:00～19:30
- 【場 所】 苫小牧市役所9階 議会大会議室
- 【出席者】 若林会長、橋本副会長、杉立委員、丹治委員、公地委員、織田委員、井上委員、北川委員、奥村委員、佐藤委員
- 【事務局】 苫小牧市 総合政策部 富田部長、政策推進室 町田室長、政策推進課 小名課長、阿部課長補佐、川合主査

### 議 事 内 容

- 1 開会
- 2 議題
  - (1) まちづくりに関する意見・提案（更新版）
  - (2) 今後のスケジュール
  - (3) 新しい総合計画の大綱イメージ  
一括事務局から説明
  - (4) 意見交換

#### ●委員

総合計画については、苫小牧市だけでなく全国の自治体でそれぞれ作られている。それらを見ると概ね似たようなものになっている。

資料を見ると、項目がありすぎるので、ポイントを決めて、まとめると良いのではないか。

#### ●会長

今後、人口減少が見込まれているなかで、魅力ある街づくりを目指していくという点では、福祉や医療が充実し、高齢者や障がい者も含めて安心して暮らしていけるまちづくりを、計画の中で具体的に考えていく必要があると思う。

#### ●委員

項目がたくさんあって、全てを把握したうえで意見を出すのは難しい。それぞれの立場に

よって主張することも異なるし、どこを重点に取り組んでほしいかも変わってくる。もっと幅広く意見を求める機会をつくってはどうか。

パブリックコメントもあるが、なかなか広く意見が出るものでもないと思う。このような懇話会も、毎回同じ人ではなく、毎回違うメンバーから意見を聞くようにするともっと広く意見が聞けるのではないか。また、若い世代の人たちも街のことを考えているので、そうした人たちの意見を聞く機会も設けた方が良いと思う。

#### ●委員

たまたまテレビで、高齢者の運転免許証の自主返納が取り上げられていた。そのなかで自主返納の特典として公共交通機関の割引などが紹介されていた。そうした支援や、高齢者が自宅から職場まで公共交通機関を利用する場合の割引などがあっても良いのではないかと感じた。

地区ごとの事情もあるので、町内会単位で意見を聞く機会を設けたり、いろいろな立場の人から広く意見を聞く機会を設けたりするのが良いと思う。

#### ●委員

福祉に関わる問題について市とも協議していく必要があると感じている。ケアネットの活動の推進には関心を持っている。また、障がい者に関する事、子どもに関する事などある程度専門的な立場の人が集まって、これからの福祉のあり方について意見を交わす方が具体的に進められるのではないか。

#### ●委員

障がい者の関係は、昨年度からふれあい福祉センターに集約された。それまでは市が直接担当していたが、現在は指定管理者が運営するようになり、以前より融通が利かなくなり、会員からは使いづらいという声も聞かれる。

新聞では、豊川コミュニティセンターが福祉避難所になるということでオープンした。障がい者は、災害時に逃げるのが最後になるので、災害時のことを常に気にかけている。他にも福祉避難所の整備を進めてほしい。

#### ●委員

運転免許証を自主返納した場合、その後、買い物などの際に移動手段がなく困るということで手放せない状況にある。そうしたことに配慮し、公共交通機関の割引や移動販売の促進

なども有効だと思う。

専門の人たちだけが集まって意見を出しても意見が偏ってしまうので、パブリックコメントだけでなく、広くいろいろな人との意見交換の機会を増やした方が良いと思う。

#### ●委員

総合計画ということで、非常に膨大な計画なので、今回の懇話会は、各分野、市民の一般的な意見を聞くということで、消費者の立場から意見を出した。この後、素案作りに入るというスケジュール感だが、今回の懇話会の意見をたたき台として、各分野の専門的な人の意見も聞くのかと思っていた。この懇話会だけでなく、分野ごとに深めた意見交換の場があると良いと思う。

パブリックコメントについては、様々な分野について市民の意見を聞くという点で意義があることだし、市が気付かなかったことについて市民から意見が出されるということに期待したいが、実際には、パブリックコメントを実施していることが市民に知られず、後から気が付くということも多いと思う。市民の個別のアイディアはたくさんあると思うので、パブリックコメントを実施しているということを市民に広く認知してもらうようにしてほしい。

#### ●委員

壮大すぎて、何をどう話してよいかわからない。自分がこれまで出した意見で少しでも街がよくなればうれしい。

#### ●委員

10年前に移住してきてから、同様の懇話会にいくつか出て、自由に意見を出してきた。この後、5月までに市で素案をまとめて、パブリックコメントの前に、施策の大綱ごとに市民を募集して、ワークショップで話し合ってもらってはどうか。そこでの意見を踏まえて審議会で検討してもらい、その後パブリックコメントを実施してほしい。

#### ●事務局

市としても、パブリックコメントでたくさんの市民から意見をもらえればと常に思っているが、なかなか多くの意見がもらえないというのも現状である。今回の総合計画の策定については、その点を工夫して、多くの市民の皆様から意見をもらえるよう努力していきたい。パブリックコメントの実施時期や他の意見の聴取方法等については、今後内部で検討する。

●委員

市民自治を広めるという時に、市はいろいろきめ細かな取り組みを行った。あの時のように、今回の基本計画がどれだけ将来の苫小牧市民にとって大切なものなのか、単に市が決めるというのではなく、市民みんなで考えようという市民自治を具現化するようなムーブメントを起こしてほしい。

●委員

市議会の議決が、平成 29 年 12 月というのは動かせないのか。

●事務局

平成 30 年 2 月でも問題はない。できれば 12 月が望ましい。

●事務局

地方自治法の改正により、基本構想の策定は必須ではなくなったが、市の自治基本条例の中で策定することになっている。現在の計画が平成 29 年度、平成 30 年 3 月までとなっているので、それまでに次期の総合計画を作る必要がある。今年の 12 月までに作らなければならないということではなく、29 年度中、平成 30 年の 2 月までに議決ができれば問題はない。

●事務局

なお、総合計画の実施計画に基づき次年度の予算編成を行う、という考え方もあるので、2 月の予算編成の審議の際には、総合計画も方向性が決まった状態が望ましい。

●委員

前回までの意見のまとめの中で、学生が札幌に移り住んでしまうという意見が載っているが、市としては苫小牧市から通学してほしいのか、それとも移り住んでも仕方ないと考えているのか。自身、札幌に通学していたが、JR よりバスは便利だが通学定期代が高く、定期代の安い JR で通学していた。JR は運行本数が少なく、交通の便が悪いから札幌に移ってしまうというのが現状だと思う。

●事務局

今後、人口減少が進むなかで、苫小牧市としては人口をとどめていくというのを目標としている。そのなかで若者の定住化は重要な課題である。青年会議所が主催した市民議会の中

では、高校生が主体となってまちづくりに関する意見を出してもらい、そこから発展してイベントなど高校生にまちづくりに参加してもらおうというような動きが始まっている。そうした動きを大事にしながら、今後の10年20年を見据えたまちづくりをしていきたいと考えている。若者の定住率の妨げになる公共交通の課題があるのであれば、市としてもその改善に取り組んでいく必要があると考えている。

現時点でJR問題は、一自治体に取り組んで解決できるものではないということも理解いただきたい。

若者の定住は、まちづくりの中で非常に重要であるということは、市としても十分認識しており、そこを踏まえて、総合計画を作っていきたいと考えている。

#### ●委員

人口減少が進む中で、若者と高齢者が共存していかなければ街はなくなると思っている。企業としては若者が働ける居場所、環境づくり、雇用できるような体制をとっていく必要がある。そのためには若者の意見を取り入れる必要があり、若者を集めて交流会を定期的開催するようなことも必要だと思う。若者の定住化を図るということは需要であり、大学は市外でも就職の際は苫小牧に戻ってくるという働きかけをどのようにしていくかというのも今後の課題だと思う。

#### ●委員

パブリックコメントの際に、意見を出す機会もあろうかと思う。総合計画は範囲が広いので、まとめていくのは大変だと思うが、ぜひ良いものを作ってほしい。